様式1

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1003001

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4	簡易水道事業会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	21	情報通信網の整備・充実	事業優先度		B	※現在の電算機は、平成20年度でリース期間満了となり、2年間の再リースを行い、平成23年度で5年間のリースによる電算機更新導入事業を行いたい。(平成27年度まで)
単位施策	2	行政情報化の推進				
事業名		上下水道事業料金管理電算機更新導入事業	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
			見直し年度			
事業期間		平成23年度～平成24年度	担当課	10	建設水道課	
事業主体		雄武町	関係課		#N/A	
事業指標		導入機器数			#N/A	
事業目標		システム一式	ﾊｰﾄﾞ／ｿﾌﾄ 事業区分	1	ハード事業	
住民参加 住民協働	2		関係例規・法令名			
			関係個別計画名			

		全体計画 事業内容	平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容
計画内容		上下水道料金請求及び収納管理の効率化が図られ事務能率の向上が図られる。 ※現在の電算機は、平成20年度でリース期間満了となりますが、その後2年間の再リースを行い、平成23年度に更新導入事業を行いたい				・電算機更新導入 (5年間リース料等) ※事業費支払按分 簡易水道事業特別会計70% 公共下水道事業特別会計30%	・電算機更新導入 (5年間リース料等) ※事業費支払按分 簡易水道事業特別会計70% 公共下水道事業特別会計30%
計画事業費	事業費(千円)	6,696	0	0	0	3,348	3,348
財源内訳	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	6,696				3,348	3,348
実績事業費	事業費(千円)	6,696	0	0	0	3,348	3,348
財源内訳	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	6,696				3,348	3,348
関連事項	(特定財源の詳細等)	【評価・実績】	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 (5年間リース契約、保守契約) ※前年度評価結果	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 (5年間リース契約、保守契約) ※前年度評価結果
	第4期総合計画関連	年度目標値					システム一式
	(継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	100%
		全体達成率	0%	0%	0%	50%	100%
		事業進捗状況				☆☆☆☆	☆☆☆☆

様式１

事業名	上下水道事業料金管理電算機更新導入事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	佐 竹 邦 夫
		評価者 作成者 職氏名	水道業務係主査	林 崎 光 也

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	町民、水道検針業務
【抱える課題やニーズは】	・料金請求、収納管理の適正化 ・水道検針業務の効率化
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	検針漏れ防止や迅速処理が可能となり、委託業者とのデータ授受も速やかに行える。さらに検針データのシステムへの反映により、迅速かつ適正な料金管理が行えるとともに異常水量の早期把握により、漏水等の早期発見が可能となる。
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	効率的かつ適正な行政運営、住民サービス

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	導入機器数	
指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 導入機器数	目標年度	平成24 年度
	目標値	1 式
	実績値	1 式
	達成度	100.0 %
②	目標年度	年度
	目標値	
	実績値	
	達成度	#DIV/0! %

【内容（どのような手段で何を行ったか）】	上下水道料金システムの導入	従来のシステムをバージョンアップした検針端末を使用できる最新型のシステム導入を行った。 導入にあたっては、既存のデータを全部反映させるため、従来のシステム導入業者と随意契約した。

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	町が水道事業者であることから、適正な料金管理はもとより、効率的な運営に配慮するため、必要である。
必要／概ね必要／課題あり	☐	全部	
	☐	一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況		システム導入により、検針時間の短縮やデータ授受の簡素化など大きな効果が得られている。
	☑	達成	
有効／概ね有効／課題あり	☐	ほぼ達成	
	☐	下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由		従来システム導入業者との随意契約とし、リース契約することで単年度ごとの事業費を抑制した。また、システム導入により検針時間が大幅に短縮されており、事務の効率アップにつながっている。
	☑	事業費抑制	
	☐	人員削減	
効率的／概ね効率的／課題あり	☑	時間短縮・作業軽減	
	☐	その他	

（4）事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由		専用水道や営農用水の配水地域を除き、ほとんどの町民が利用する簡易水道に係る必要なシステム導入であり、概ね公平であると判断する。
	☐	受益者負担がある	
	☑	受益者負担がない	
公平／概ね公平／公平でない	☐	受益が一部に偏る	
	☐	その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【Ａ～Ｄ】
Ａ：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
Ｂ：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
Ｃ：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
Ｄ：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
Ａ		
計画通りのシステム導入を行ったところであるが、期待した効果が得られており、目標は達成されたものと認識している。		

今後の展開方向（Action）

継続／現状維持		
今後も機器等の使用年数を考慮し、定期的なシステム更新が必要と考えます。		

※展開方向の区分
〇継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
〇終了　〇休止　〇廃止